

特集

1

大学・専門家と 連携した 発達障がいがある 子どもの支援モデル

東京藝術大学COI拠点、
NPO法人ADDSとの三者連携により、
保護者のサポートにもつながる
ワークショップを開発・展開しています。

音と光の動物園

子どもたちが作った
ペーパークラフトの
動物たちが
映像の中で動き出す！

子どもと保護者をともに支援できる 楽しいワークショップを

発達障がいがある子どもとその保護者を対象としたワークショップ「音と光の動物園」。2016年から開催し、これまで3回実施しています。2017年度は、横浜み

なとみらいホールとの共催で、初めて大学施設以外の会場での開催を実現しました。今後も自治体や地域の音楽ホール等との連携による展開を目指します。

障がいの有無にかかわらず芸術を楽しめる場を作りたい



東京藝術大学 COI 拠点
「障がいと表現研究」
グループリーダー・特任教授
新井 鷗子さん

私たち「障がいと表現研究グループ」では、「障がいから学ぶ」をキーワードに、芸術を通してすべての人々が夢をもって生きられる共生社会の実現を目指し、研究を重ねています。さまざまな障がいを対象とする研究活動の中で、発達障がいがある子どもたちが音楽や美術に触れたときの反応の大きさや、子どもたち自身の表現力や創作のパワーに驚かされ、彼らの居場所をつくるのが芸術の役割なのだと思うに至りました。

「楽しく学ぶ」という経験を多くの子どもたちに体験してもらおうと、「音と光の動物園」では、子どもたちの自発性を引き出すデジタルアートや打楽器体験など多彩なコンテンツを用意し、発達段階や障がいにかかわらず、親子で一緒に参加できる空間づくりを目指しています。2017年度は初めて大学施設以外の会場での開催にチャレンジしました。2018年度も横浜や金沢での開催を予定しており、ワークショップのさらなる広がりを目指します。

視覚・聴覚・触覚で楽しめる“共感覚”な遊び、学びの体験を



東京藝術大学
大学院映像研究科
メディア映像専攻 教授
桐山 孝司さん

「共感覚メディア研究グループ」では、遊び、学びを活性化することを目的に、映像やセンサー技術を駆使して五感を刺激するシステムを作っています。

発達障がい支援ワークショップでは、映像や音を組み合わせた作品を取り入れ、子どもたちが実際に触ったり、聞いたりできるインタラクティブなコンテンツを提供しています。ADDSやベネッセこども基金の皆さんか

らのアイデアをもとに、擬音語の文字にタブレット端末をかざすと動物が現れるARアプリも開発しました。子どもたちの反応がとてもよかったことに勇気付けられるとともに、このアプリは障がいにかかわらず、広く学びにつながる可能性を感じています。

ワークショップを通じ、映像や音の体験による共感覚的な学びの普及に取り組んでいきます。

子どもの可能性を広げる“最高に楽しい”プログラムを目指して



NPO 法人 ADDS 理事
研究開発・情報発信事業部
統括
加藤 愛理さん

「発達障がいあるいはその疑いのあるお子さまとご家族が、早期に適切な支援を受けることにより、お子さまの可能性を最大限に広げることができる」。その理念のもと、ADDSは療育支援に取り組んでいます。

プログラムを検討する際には、これまでの療育や支援活動の経験に基づき、多様な発達段階にある子どもたちが楽しめる空間になるよう、アイデアを出しました。子どもと保護者が一緒に参加できるワークショップはあま

りないため、この活動に大きな価値があると思ひ、保護者にとっても学びや気づきが得られるような工夫を心がけました。

実際に参加された方からは、「周りのお子さんから刺激を受けたようで、自発的に取り組む様子が見られた」などのお声をいただいています。このワークショップが子どもたちにとって最高に楽しい場所であるとともに、可能性を広げるきっかけとなることを願っています。

三者の強みを生かした、 子どもの可能性を広げるプログラムづくり

本ワークショップは東京藝術大学COI拠点、NPO法人ADDS、ベネッセこども基金との三者連携により、開発されました。東京藝術大学のクオリティの高い音楽・映像、ADDSの療育の専門性、当財

団の子ども向けコンテンツ開発の知見が融合したプログラムです。

それぞれの強みを生かし、開催地域の団体とも連携しながら、さらなるブラッシュアップを重ねています。

芸術（音楽・映像）の
知見／リソース

療育や保護者への
サポート実績／ノウハウ



ワークショップの 内容と特長

「親子で楽しむインタラクティブなワークショップ」をテーマに、音楽と映像で表現された動物たちの世界が子どもたちの五感に働きかける本プログラム。2017年9月16日に横浜みなとみらいホールで開催した際の様子とともに、プログラムの特長をご紹介します。

まずは……

動物をかたどったペーパークラフト作り



ライオンやペンギンなど、さまざまな動物の型紙を自由にデコレーション。色を塗ったり、シールを貼ったりして飾りつけをしながら、オリジナルのペーパークラフトを作ります。

ここがPoint!

塗る・切る・貼るなど
さまざまな作業を通して、
視覚と触覚に働きかけます。



タブレット端末を使って
ペーパークラフトを
画像として取り込む



作品を映像化している間……

子どもたちはデジタルアートと 打楽器を体験

ドラムサークル

自由にたたく中で
徐々にリズムが
生まれる



全員で輪になって、音の強弱や進行の合図や動きに注意しながら打楽器を演奏。周囲を意識する感覚を、楽しくリズムを作りながら体験します。

協力：株式会社ヤマハミュージックジャパン 音楽の街づくり

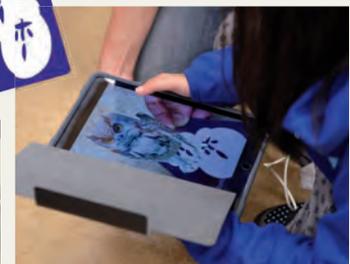
AR アプリ

「この音なあに？」



動物の鳴き声などの擬音語・擬態語が書かれたカードにタブレット端末のカメラをかざすと、音とともにその動物が画面に出現！10種類の動物を見つけるスタンプラリーのような遊びを楽しめます。

現れたフクロウを
タッチすると「ホーホー」
と鳴くしかけ



ここがPoint!

言葉の「読み」と「意味」を
結びつける（等価理解）を
楽しく学べるアプリ。
東京藝術大学の映像技術を
活かし、開発されました。

保護者の皆さんは カフェタイムで情報交換

子どもたちが自由に遊んでいる間、保護者たちは別室へ。お茶を飲みながらリラックスした空間で、情報交換をしたり、発達に関するアドバイスなどを聞く時間をもちます。

先輩ママのお話に聞き入る保護者の皆さん



そして……

音楽と映像のコンサート

サン＝サーンス《動物の謝肉祭》の演奏に合わせて、子どもたちが作ったペーパークラフトの動物たちが映像の中で動き出します。



参加した保護者からの声

障がいの程度に関係なく一緒に楽しむことができました。特に、コンサートは親も癒された時間となりました。



ボリュームといい、質といい、とてもバランスのとれたワークショップだと思いました！ぜひ定期的に開催していただきたいと思います。本日は楽しいひとときを、親子共々ありがとうございました！



ここがPoint!

自分の作品が映像化され、一つのコンサート作品として完成することにより、達成感が得られる構成になっています。

地域での継続的な 支援を目指して

ワークショップを一日限りの楽しい体験で終わらせないよう、継続的な支援の可能性も模索しています。

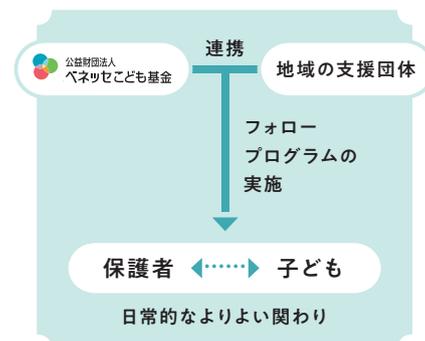
開催地域で活動する地元の支援団体と連携し、ワークショップに参加した保護者の方向けのフォロープログラムを開催するなど、地域で支援が継続するようなモデル作りに取り組んでいます。2018年3月には、横浜市を中心に活動するNPO

法人アントワープカウンセリングオフィスと連携し、横浜で開催した「音と光の動物園」に参加した保護者の方を対象にフォロープログラムを提供しました。

ワークショップをきっかけに、地域において保護者の方の子どもへのよりよい関わりをサポートするような、支援の枠組みの創出を目指しています。

音と光の動物園

開催後も…



地域に根差した継続的な支援